



ロータリーは
世界をつなぐ



RI第2510地区 留萌ロータリークラブ

会報

2019 ▶ 2020
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

クラブの活性化と行動は 世界・地域に向けて

会長／福士 幸子 幹事／串橋 伸幸

プログラム

- 本日
「我が生い立ち」 田中美智子 会員
- 次週予定
「会員卓話」 山根 達也 会員

配偶者誕生日
辻 本 順 子

No. 2857
第27回 1月29日

出席報告

前
例
会

会員総数	31名
出免会員	2名
出免出席	2名
基準会員出席	19名
出席率	65.51%

前
々
会

第24回 1月8日

欠席会員	0名
内メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

1. 1961年に留萌クラブが26名のメンバーで誕生し、今年2月で59周年、留萌クラブは59歳を迎えます。次年度は創立60周年を迎えますが、留萌クラブとして実行委員会を立ち上げ、対馬会員を実行委員長として式典、記念行事、懇親会が開催されます。本日、対馬会員にその思いを語って頂こうと思いましたが、本日風邪のため欠席されておりますので、次の機会にお願いしようと思ひます。

できました。よろしくお願いいたします。

🗨️ ニコニコBOX

- 燕会員、西原会員、語り楽しみにしています。 福士会長
- 今日も元気に早起きました。辻本エレクト
- 本日卓話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。来週検証ツアーに行って参ります。 燕会員
- 6年ぶりにおみくじで大吉を引きました。何か良い事がありそうです。 田中会員
- すみません。用事で早退します。 鈴木会員

📁 幹事報告

- 砂川ロータリークラブより12月会報を受領しました。
- 皆様には下期会費の請求書を送らせていた

前 回	486,000円
今 回	7,000円
累 計	493,000円

プログラム……………

(先週からの続き/福士会員)

「風速」の値は高いが「風力」はさほどでもない、ということもありうるのだろうか。おそらくこれも、気象学者ならただちに回答してくれるのだろう。しかし、一般人はわからない。不思議…。

さらにたとえば…陸上競技で、100メートルの現在の世界記録はウサイン・ボルトの9秒58だ。サニブラウンによる9秒97は日本記録。調べてみると1000年前10秒6が世界記録で、1960年では10秒00だった、初めて10秒を切ったのは68年のアメリカのジム・ハインズ。9秒9だった。

競泳に目を移すと「フジヤマのトビウオ」の異名で知られた古橋廣之進が49年に出した1500メートル自由形の世界新は18分19秒0。世界を驚かせた。それが今や、世界記録は14分31秒02(2012年ロンドンオリンピックで中国の孫陽が出した)だ。これを進歩とっていいなら、まさに「長足の」ではないか。

どこまで行くのだろうか…。限界というものはないのだろうか。しかし、いつの日か人間が100メートル3秒で走るなどということはいえないと考える。1500メートルを3分で泳ぐこともないだろう。だが、そこまでいなくても、記録は伸びている。やがて、100メートルを8秒で走る人間が世界に大勢いるという時代になるかもしれない。1500メートル10分で横並びという日が来るかもしれない。だが、それ以上は決して無理、という。つまり明確に限界が判明する日を迎えることになりはしないだろうか、何をやっても横一線だ。何しろ限界なのだから。そうなったら、陸上も水泳もつまらなくなるだろう。というより、競技そのものが意味をなさなくなる。どうする。

今度は、遅さを競う競技に変更する？これも、学者には答えが見えることなのかもしれないが…。

されに言えば…もうやめよう。とにかく、門外漢は、どうでもいいことをなんだかんだと思

いめぐらすのである。埒もないことを、と言われてそうだが、こんなことを思う人はたくさんいるだろう。自由業の僕にとって日曜は休日ではないが、とはいえ、以上日曜のたわごとである。

(令和元年9月14日日 経新聞掲載)

以上、日曜日の朝、コーヒーを飲みながら読んだコラムでした。

~~~~~  
=年男・年女大いに語る パート2=

燕 美雪 会員

年女ですが、大いに語れない私にとっては、このプログラムがずっしりと重いものであり、何を語ればいいのかまったく思いつかず、ましてや人前で話すのが苦手な私にとって非常に新年早々正直ストレスでございました。私の仕事は新年にふさわしくないとまいしょうか、です。そんな話も出来ずに、じゃあ何を話そうかと考えてもパッと出てこない。難しい話やためになる話も無く、そんな中、昔のロータリーのDVDを見る機会がありました。懐かしさと、また自分が若く痩せている姿とこんな事もあったなあ～と思いながら見ている中で、ふと、そう言えばこの前、10年のバッジをもらい、そして次年度幹事になる、幹事の時に60周年を迎え、すべてにおいて私のロータリー活動が節目にある事の実感を覚え、ましてや年女である事も踏まえ、こんなに色々な事が重なるのかと改めて考えさせられる機会でございました。そこで考えた結果が「ロータリーと私」という題材でお話したいと思います。

私がロータリーと出会ったのは2009年、平成21年の秋頃でしたでしょうか。對馬会員、今は退会されてしまいました二ノ宮会員、そして中出会員と来場され、勧誘にこられたのが始まりでした。二ノ宮会員は私の仲人でもあり、祖父の時代から交流がございました。ロータリークラブ自体全く知らないものでも無かったので、言われるまま入会したのが現状でございます。ただ、入会当初は仕事も抜けられない状況でございましたので、なかなか出席には至らず、ロータリーは連続3回例会を欠席すると退会になるという事をかなり後から知るような状態でござ



## 第26回 1月22日(水) 天候/晴

---

「今度のお祝いは90歳の卒寿だね」と言っていたのですが、昨年12月にトイレで転倒しまして、入院する事になり、一度退院をしても良い事になったのですが、肺炎を起こして約3週間であつという間に亡くなってしまったのが父の最期でございました。その後、葬儀の準備に追われ、正直私は父の普段の姿というものを知らなくて、あまり私とはペラペラ話すような人ではなくて、私も中学までは北見に居ましたが、高校からは北見を離れて、大学も北見を離れて生活していましたので、父とは話す事はありませんでしたが、父の葬儀の時弔問に来た方から、「習字を教えてもらいました」とか、「書道を教えてもらいお世話になりました」と言われ、父の生き方を改めて学ばさせていただきました。葬儀の方は、本当は家族葬でやろうと思っていたのですが、結果は一般葬させていただきました。葬儀ですので、本当に良いと言ったら変ですが、祭壇に父の書道の作品とかを飾って、父の事を知る事が出来たので、本当に良かったと思っています。

そんな父の姿を見ながら、私も本年還暦を迎える歳になりました。昨年から又、本を読み始めましたが、その中で、私の心に残ったものがありましたので紹介いたします。佐藤一斎という明治時代の人、哲学者の話ですが「三学戒」というものがあります。三つに学ぶに戒めると書いて三学戒と言います。まずそれを読まさせていただきます。「若くして学ばば、即ち壮にして為すことあり。壮にして学ばば、即ち老いて衰えず。老いて学ばば、即ち死して朽ちず。」というフレーズです。何となくわかるかなとは思いますが、かみ砕いて説明しますと、若い時は当然として、人は老いるまで学び続けるべきだという考えを説いたものです。子どもの頃からしっかり学ばば、大人になって夢を実現出来ます。大人になってからも更に学び続ければ、老年になっても衰える事はありません。老年になっても学ぶことを止めなければ、死んだ後も自分の業績が次の世代にも引き継がれていきます。という内容です。生活仕事にかまけて、学ぶという事をしなくなってきた私にとって非

常にこの言葉が重く感じられ、特に現在60歳が老年なのか、壮年期なのか、青年期なのか、私にもまだわかりませんので、一応現在は75歳が老年と言う事になっておりますが、まだまだ私も頑張つて学んで行きたいなと思っておりますので、皆さんと一緒にロータリーを通じて貢献できればと思っております。還暦を迎えての目標にしたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。以上、私の大いに語るにかえさせていただきます。ありがとうございました。

